

授業科目名	舞台芸術実習 B	担当教員	山内 健司 杉山 至 尾西 教彰 児玉 北斗 木田 真理子 石井 路子 近藤 のぞみ 河村 竜也 田上 豊 深澤 南土実 岡元 ひかる
必修の区分	選択		
単位数	2 単位		
授業の方法	実習		
開講年次	2 年第 3 クォーター		
講義内容	これまでに履修した講義や演習、実習の学びを踏まえ、舞台芸術の実作を通じて、表現者として自立する第一歩とする。海外の教育機関と伍するレベルの作品の創作を目指し、日本と世界のコンテンポラリーな作品制作を考察する礎とする。作品制作にまつわるすべての職種において、誰もが主体的に全体の仕事にあたる創作環境を獲得し、集団による創作に臨む。多様な表現者と多様な観客とが、お互いを尊重して集うことのできる場としての作品をつくる。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.表現者としての自立を目指し創作に臨むことができる。 2.お互いを尊重して、集団での創作活動に臨むことができる。 3.表現者と観客が集う場の価値を認識し、高めることができる。 4.近代とは何かを踏まえ、コンテンポラリーな作品創作について述べるることができる。 		
授業計画	<p>舞台芸術実習 B は、学生が主体となって、観客や創作のチームメンバーと向き合い、上演芸術における現在性に着目する。上演においては、観客と同じ空間に集い、同じ時間を過ごすことの意味を考えた創作をおこなう。また創作過程においては、チーム内でメンバーと向き合うことで、個人が尊重され生かされる協働的な創作のあり方を学ぶ。</p> <p>また、本科目は 80 時間の臨地実務演習等にあたり、外部の実習指導者が指導にあたることから、時間割枠外での実施がある。また内容については、以下の様な内容を取り扱うが、必ずしもこの順序になるとは限らない。また授業内でも一定の制作時間を確保するが、進捗によっては各自が授業外で制作に取り組む必要がある。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本読み、演出方針の共有 2. 戯曲リサーチ、シーン稽古開始 3. シーン稽古、セリフ確認と各人の課題設定 4. 通し稽古（セリフ確認を中心とする） 5. スタッフワークのプランニング・共有 6. シーン稽古、イメージを深める 1 7. シーン稽古、イメージを深める 2 8. 劇場仕込み・リハーサル 9. ゲネプロ 10. 公演 1：本番 11. 公演 2：本番 12. 振り返り 		
事前・事後学習	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に、個人的な準備（リサーチ、セリフ入れ、演技の課題設定、スタッフワーク）を十分に行なって実習に臨むこと。 ・あわせて、パートナーとの練習・相談を十分に行なって稽古に臨むこと。 		

テキスト	上演戯曲の決定後、実習の開始前に配布
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・実習において参考資料を配付する。 ・参考文献等を適宜紹介する。
成績評価の基準	<ul style="list-style-type: none"> ・創作過程における取り組み・発言・文章（70%） ・公演・振り返りにおける取り組み・発言・文章（30%）
履修上の注意 履修要件	
実践的教育	学外の臨地実務実習先の実習指導者から、実践的な指導を受けながら実習をすることから、実践的教育に該当する。
備考欄	定員超過の場合は志望理由等をもとに選考します。